

◎旗振支部～妙見堂から

## ◆ 自粛ときどき山歩き ◆

北野 利男

### 1. 昨年 of 山事情

健やかなるヒヨコの皆さま、明けましてオメトウございます。昨年は全人類にとって受難の年でしたが、私どもは不幸中の幸いと言うべきか、“自粛”しつつも、さわやかな裏山が毎朝迎えてくれるので、忍耐の日々をやり過ごすことが出来た様な気がします。今年も未だ厳しい状況ながら徐々に明るさを取り戻し、やがて五輪の花が咲くことでしょう。

ヒヨコ登山会の行事も、苦渋の決断をされ中止や変則実施で切り抜けたことは、御同慶の至りというべきでしょう。私も山仲間との山行や、好きな単独行もほゞ自粛しましたが、記憶に残る昨年の山歩きについて記したいと思います。

### 2. 妙見堂の昨年

そんな中で、旗振支部の皆さんは例年以上に澆漑として毎日登山等に、笑顔明るく、黙々



と励んでおられたような様に思います。

私が登っている妙見堂署名所での一つの異変は、夏のころ子供たちが大挙して登って来るといふブームが起きました。署名簿から掲示表に押印管理する係の人達は苦勞されたと思いますが、ちょっと明るい出来事でした。長続きするように願ったが、秋風と共にだんだん減って僅かとなった。その少数を見守り

励ましたいですね。

もう一つトピックスと言うべきことは、登山道整備のことです。ベテランの坂本氏、長渡氏らによるボランティア精神で、機材を運び上げては、下から上まで歩きにくい所には丸太で階段を造り、大雨で崩れそうな処の補修や、深く溜まった溝の土砂を大掛かりに浚って、路の窪みを均したりされました。毎朝、登る度に頭が下がります。



### 3. 六甲分割縦走

ヒヨコの恒例行事、六甲全山縦走大会は私も分割縦走の部に参加させてもらった。1回目は1月、2回目は2月で予定通りながら、3回目はコロナ禍で10月に延期して実施された。

私も、最後の挑戦かな？ と思いながら今年も何とか三分割で完走することが出来ました。秋の日はつるべ落として、宝塚への下りは暗い道となり、武庫川に映るネオンに眼がうるんだようだ。



#### 4.東北の名峰、以東岳登頂記

近年の私は、ヒマさえあれば未踏の全三百名山踏破を目指して来た。残り7座となって、最終盤の思いが深く、虎視眈々と計画を練っていたところ、雪も融けないうちから新型コロナウイルスに阻まれてしまった。

じっと待って8月、GO TO が叫ばれるころ、綿密な計画でGO。新潟・山形県境の朝



日連峰北端にある二百名山“以東岳”に向けての単独行。東海道も上越も新幹線はガラ空きだった。新潟で羽越線の特急に乗換え鶴岡駅に夕方到着。ここから路線バスで大鳥口の旅館へ行くつもりだったが、一日二便のバスが運行休止だという、泣く泣く1万円出しハイヤーを駆って山の旅館へ。

翌朝5時、宿の主人に林道を車で40分送ってもらい、泡滝登山口から登山開始→4時間で大鳥池へ、直登コースを喘ぎながら5時間掛けて→頂上直下の避難小屋へ、標準コースタイムの3割増しだが直登は苦しかった。小屋では私を含めて6人同宿、話も控えめにして寝袋にもぐって就寝。夜中に目覚めて星を見に外に出ると、猛烈な星屑が迫って来た。明朝の絶景信じてグッスリ。

朝4時半に小屋を出て→25分で以東岳頂上1771mへ。空は透けるような青、東方に広がる雄大な雲海の右方には朝日連峰が連なり、その先に大朝日岳が聳えている。左方には月山のどっしりとした大きな峰が、更に左遠方に鳥海山がうっすらと見える。南方には

飯豊連山も、何れもかつて登った百名山だ。西方を見下ろすと昨夜泊まった避難小屋が見え、その下方に昨日脇を通った大鳥池が、熊の毛皮を拵げた形に見える。

天気こんなに恵まれたとは、正に天恵だ！



下山は、オツボ峰を廻るルートを探る。花を愛で、写真を楽しみながら下る。大好きな尾根歩きだ。リンドウ、マツムシソウ、ウメバチソウや、咲き遅れたヒメサユリも一株見つけた。一昨日の旅館にもう一泊して、行きと逆順で帰神した。

私の、日本三百名山の登頂実績は294座となった。あとは行き難い山ばかり残っているが、寿命は残り残っていない？ しかし今年是非とも、モウ一つ、北ア最奥の“赤牛岳”に登りたい、丑年の干支の山だ。5泊6日の計画は出来ている。

#### 5.対馬の名山へ

これまで、島の名山にもよく登ったが昨年は、11月に対馬の白嶽へ登った。修行の山として険しくて面白そうなので興味を持っていた。

山専門の旅行社のツアーに単独参加し、伊丹からANAで福岡空港へ。東京・大阪・福岡からの12名が合流し、博多港に集結。ジェットホイルで2時間15分⇒対馬巖原港へ。まず有明山(558m、獲得標高1195m、所要4.5時間)へ登る。この山は、国境の島として古代の白村江の戦いや、元寇の襲来、

秀吉の文禄の役など何度も戦の最前線となった処で、山城等の史跡が溢れていた。島の山の見晴らしは、どこも素晴らしい。

翌日は、早朝から白嶽へ向かう、洲藻登山口を8時に出発→修験道の行場の山らしく、厳しい岩場が続く→白嶽雄岳（519m、獲得標高1195m、所要4.5時間）へ登る。雄岳の岩峰の上から見る雌岳の岩峰が圧巻だった。（下の写真）

下山後、巖原港からフェリーで⇒吉岐郷ノ浦港へ。翌日、縄文時代の遺跡巡りなどして、



博多経由で帰途に就いた。コロナ禍の恩恵と言うべきか、日頃多いという韓国勢も居なくて有難かった。

今年こそ、ヒヨコの山族にとって幸あれ！！

2月の全縦のとき、ふとつぶやいた短歌一つ。

《冬枯れの縦走路ゆく猛者どもの  
溜め息誘う蠟梅の花》